

令和7年度 第1回 学校運営協議会 会議録

1 日 時 令和7年6月19日(木)15:00～16:15

2 場 所 城南高等学校 大会議室

3 参加者数 13名

4 会 次 第

(1)委員長選出

委員長として、酒池同窓会会長が選出された。

(2)委員長挨拶

(3)校長挨拶

(4)協議

①学校運営の基本方針について

佐山校長が、令和7年度の学校経営方針等について説明し、承認された。

②学校評価計画について

中川教務課長が、令和7年度の学校評価計画について説明した。

③城南高校のさらなる特色化・魅力化について

近藤SSH推進課長より、本校の探究活動に係る現状と課題について説明し、生徒のニーズと地域や企業等のニーズやサポートのマッチングについて、各委員からさまざまなご意見やご質問を頂戴し、議論していただいた。



*委員からいただいたご意見

《地域や企業等のニーズについて》

・徳島県内にもたくさんのNPO法人があり、行政や専門機関ではまかなえないような課題を事業化するなどしている。高校生と一緒に活動したいと思っているところは多いはず。どうしたら高校生たち若い方に興味を持ってもらえるのかが課題になっている所も少なくないので、積極的に声をかけてみるとよいと思う。

・徳島県内でも、救急需要の増加により、救急車が常に出動している状況であり、その結果、重症の方のもとに救急車がすぐに向かえないというケースも発生しかねない。その課題の一つに高齢化がある。救急車の適正利用も含め、高齢者へのサポートやサービスをどう行っていくのか、関心をもってもらえると有り難い。

・地域企業や産業の強みや特色を、もっと高校生に知ってもらう機会を作ってもらいたい。

・地域活動への若い人の参加が見られなくなり、町内会に入らない世帯も増えている。

高校生は、生活地域の状況をどんな目で見ているのか、気になっている。町内会という制度は必要なのか不要なのか等、考えてもらえると有り難い。

《助言》

- ・高校生には、大学などの専門機関や行政機関の意見等に対して、「疑う目」をもってほしい。
例えば、当事者の考える課題と専門機関や行政機関が課題とするものに乖離がある場合、専門機関や行政機関がこれが課題だろうと思いたいことを課題としてしまっていることもある。
つまり、はじめから話を信じるのではなく、疑いながら自分たちで考えることを大切にしてほしい。
- ・徳島では、高校でも大学でも、地域で働き、地域を動かす人材の育成への思いが強いように感じる
が、今、高校生でいる子に、地域の経済を担っていくことを課すのか、今からそういうところを意識させることが本当にいいのだろうか。もっと広くいろいろな知識を身につけ、いろいろな経験をして多角的な視野をもって、自らの能力を磨いた彼らに、やっぱり徳島が魅力的だから、徳島でやりたいと思ってもらえる場所に徳島がならなければならないのではないか。そこが大事なのではないだろうか。

